

## 看護職の生涯教育としての 「夜間看護サテライト」看護セミナーの試みと効果

吉村恵美子<sup>1)</sup> 青柳美秀子<sup>1)</sup> 蔵谷範子<sup>1)</sup> 武内和子<sup>1)</sup> 山崎千寿子<sup>1)</sup> 添田真郷<sup>1)</sup> 高橋亮<sup>2)</sup>

### 要 旨

川崎市内の看護職のもつ学習ニーズに応えるため、川崎市内を中心とした看護職に対し、生涯教育の一環として教育プログラムを開発し、「夜間サテライト」看護セミナーを実施した結果、77名の参加があった。受講者に対し、終了時にアンケートを実施した結果、2コースとも「ニーズに合っており、知識・スキルが習得でき、これからに活かせる」と高い満足感を示していた。また、進行や日程、場所、費用に関しても約90%以上の人が適切としており、それぞれのニーズに合ったものであったと判断できる。今後の課題としては、より受講者のニーズを捉えて、学ぶ喜びを感じることができるプログラムを準備することが重要であると考え、「生涯学習」を視野にいたした本学の在り方の重要性が確認でき、本学が出来る「サービス」についての多くの示唆を得ることができた。

キーワード：看護職、生涯教育、夜間サテライト、社会貢献

### はじめに

2005年の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で「社会貢献」は大学の第三の使命とされた。そこで本学で実施している「社会貢献」を見直し市内唯一の公立短期大学に対して川崎市内の看護職のもつ学習ニーズに応えるため、川崎市看護協会と共同で「看護職の学習ニーズ調査」を、4,101名を対象に実施した<sup>1)</sup>。その結果、看護者の学習ニーズは高く、本学が研修会を開催したら65%以上の人が参加したいと答えていた。そのニーズに応えるため、川崎市内を中心とした看護職に対して研究的取り組みとして「夜間サテライト」を企画し、実施した。

受講のテーマ、日程等については、その希望を聞き決定していった。また研修場所も利便性を考え、駅から徒歩2分の施設を利用することにし、平日の勤務終了後の2時間を使って開催することとした。その取り組みの経緯、教育内容とアンケートの結果から得られた学びについて述べる。

### I. 研究の目的

1. 川崎市内を中心とした、看護職に対し、「夜間サテライト」看護セミナーを実施するに当たって、看護師の生涯教育に寄与できる教育プログラムの開

発を行う。

2. セミナーに参加した受講者に対し、終了後にアンケートを実施しプログラムの評価と今後の課題を明らかにする。

### II. 研究方法

#### 1. 看護セミナーの教育プログラムの開発

- 1) 「看護職の学習ニーズ調査」に基づき、テーマ、教育内容・方法を検討し計画
- 2) 同調査に基づき、実施月日、時間、場所等の設定
- 3) 研修参加費の金額の検討

#### 2. 教育プログラムの実施

平成19年10月5日～平成19年11月26日

#### 3. 受講者へのアンケートの実施

当セミナーに4分の3以上出席した55名を対象にアンケートを実施。留め置きで最終日に実施した。なお最終日に欠席した2名に対しては、郵送にて依頼した。アンケートの主な調査内容は以下の通りである。

- 1) 現在の職場の主な職務と資格、年齢、セミナーを知った情報源
- 2) セミナーの満足度
- 3) 今後のセミナーへの参加希望の有無、希望するテーマ

1) 川崎市立看護短期大学

2) 日本赤十字北海道看護大学

Ⅲ. 倫理的配慮

調査の目的、および回答は無記名であること、個人が特定されないよう統計的に処理することを文書に明記し、口頭で説明した。回答をもって同意とみなした。郵送の2名に対しては、同様の文書を送付し、返信をもって同意とみなした。

Ⅳ. 研究結果

1. 教育プログラムの内容

「看護職の学習ニーズ調査」から、看護職者は様々な学習のニーズを持っていることを再認識できた。しかし、看護職者の継続教育は、職場、看護協会などで実施されており、棲み分けが必要である。そこで、本学のプログラムは看護の専門性や必要な学習を補

強や補充していくことを第一義とせず、受講者との双方向性での学びの場を作り出し、職域を超えた交流を通して、学びあえる環境を提供することを目的とすることとした。

本研修のコンセプトを、①気軽に参加できる、②元気になる、③刺激を受けあう、とし、演習を中心としたプログラムで構成し、募集人数は各コース30名とした。「教育・指導」「カウンセリング」というテーマに決定し、本学教員にゲストスピーカーを加えることで、内容に幅広さを持たせられるように工夫した。概要は表1を参照。

また、研修が夜間となることから軽食を準備することとし、資料代と併せて徴収することとした。

表1 夜間サテライトの教育プログラムの概要

Aコース:私を育てる ―明日の指導のために―					※開催時間 18時30分～20時30分	
回	テーマ	日時	講師	所属	主な技法	
1	看護シーンの中での育ち	10/5(金)	青柳美秀子	川崎市立看護短期大学 教授	イメージ・マップ	
2	共に育とう	10/22(月)	吉田章宏	淑徳大学、東京大学名誉教授		
3	育ちを確かめる	11/6(火)	目黒悟	藤沢市教育文化センター 主任研究員	カード構造化法	
4	「私」をそだてよう	11/21(水)	蔵谷範子	川崎市立看護短期大学 教授	プロンプターの体験	

Bコース:カウンセリングで生き生きと

回	テーマ	日時	講師	所属	主な技法	
1	なぜ今カウンセリングか	10/12(金)	吉村恵美子	川崎市立看護短期大学 教授	傾聴のトレーニング	
2	さわやかに自己表現(アサーション)	10/31(水)	塚原眞由美	川崎市立看護短期大学 臨床心理士	DESC法	
3	コーチングを学ぼう	11/16(金)	武内和子	川崎市立看護短期大学 教授	基本的なスキル	
4	カウンセリングを現場に活かそう	11/29(木)	吉村恵美子	川崎市立看護短期大学 教授	自己理解の促進のためのスキル	

表2 受講者の概要

	職務	数	%
1	看護師	39	72.2
2	保健師	5	9.3
3	助産師	3	5.6
4	准看護師	2	3.7
5	管理者	2	3.7
6	教員	1	1.9
7	その他	2	3.7
	合計	54	100

  

	年齢	数	%
1	20代	8	14.8
2	30代	16	29.6
3	40代	16	29.6
4	50代	10	18.5
5	60代	4	7.4
	合計	54	100

2. 研修の実際と受講者の状況

受講者の概要、実際の申し込みと出席の状況は表2、表3の通りである。対象者の職務は看護師が7割を占めていたが、保健師、管理者、教員などと多様であり、勤務場所も病院の他に、老人保健施設、訪問看護ステーション、保育園、市役所など様々であった。年齢は30代、40代が共に約30%であったが、様々な年代の参加があった。また看護セミナー開始は勤務後であり、終了時間も20時30分であることから、徴収した資料代の中から、飲み物と軽食を準備した。

表3 研修の出席状況

	申し込み数	出席者	3/4以上 出席者数
Aコース	41	37	18(48.6%)
Bコース	43	40	37(92.5%)
合計	84	77	55(71.4%)

(Aコースは講義1日のみ参加者8名を含む)

を示していた。Aコースは知識、スキルが習得でき、これからは活かせるとしていた。感想としては、「自分を振り返り意義深かった」「いろいろな講義が聞けておもしろかった」などであった。

Bコースは知識が習得でき、ニーズに合っていたとしており、リラックスできたとしていた。感想としては「楽しく、勉強になった」「もっと勉強したい」などであった。

3. 終了後のアンケート結果

1) 各セミナーの満足度

55名にアンケートを実施した結果、54名の回答を得られた。回答率98.2%。有効回答率は100%であった。

各セミナーについての各項目の満足感については、表4、表5のとおりである。各項目ともに高い満足

表4 セミナーの満足度

項目	Aコース	Bコース	平均値	SD
ニーズに合っていた	3.2	3.4	3.3	0.5
知識が習得できた	3.3	3.5	3.4	0.5
スキルが習得できた	3.2	3.1	3.2	0.4
リラックスできた	3.1	3.3	3.2	0.8
これからは活かせる	3.2	3.1	3.2	0.7

4=大変そう思う 3=そう思う 2=どちらともいえない 1=思わない

表5 セミナーの満足度に関するその他の意見や感想

感想や意見	総数
A 自分を振り返ることができとても意義深く思った。 自分が今まで働いてきたことを振り返った。 現在の自分の存在や周囲の人の存在に改めて気付いた。 気がたくさんありました。 自分の関わり、相手の気持ちを見直すきっかけになった。 仕事帰りに勉強ができた。 いろいろな講師が担当し、おもしろく講義を聞くことができた。	(7)
B 短い時間の講義でしたが毎回楽しく過ごすことができた。 とても楽しく勉強になった。 初めての研修であったため新鮮さを感じた。 知らない人とお話ができたりで緊張もしたがたいへん有意義な時間が持てた。 頭の切り替えと気分の転換ができた。 新しい知識の吸収ができ楽しく学べた。 時間等も仕事の帰りにと大丈夫でした。もっと増やしてもよい。 現場に活かしていきたいと思いますが、難しかった。頑張りたい。 タイムリーな内容でした。仕事にいかしていきたい。 習得までには至りませんでしたが、心に何かとどめられればそれをいかしたいと思う 知っていることも多く「学ぶ」より「視点を変える」「思い出す」です。 もっと詳しく勉強したい。 事例を多くとり入れて欲しい。 元気をもらえた。 先生たちが明るく元気で開放された。 毎回のサンドイッチとコーヒーがうれしかった。	(16)

2) セミナーの企画・運営等の満足度

開催場所についての満足度は表6、表7のとおりであり、ほとんどの人が適切としていた。

セミナーの進行、費用、日程、時間、開始時間、

表6 セミナーの企画・運営等に関する満足度

	①適切	②課題あり	備考
1 進行	51 (94.4%)	3 (1.9%)	
2 費用	48 (88.9%)	6 (11.1%)	※費用は資料代として5000円徴収
3 日程	47 (87%)	6 (11.1%)	
4 時間	50 (92.6%)	3 (5.6%)	
5 開始時間	49 (90.7%)	5 (9.3%)	
6 場所	53 (98.1%)	1 (1.9%)	

表7 セミナーの企画・運営等に関する満足度に関する意見・感想

コース	その他の意見・感想	総数
A	川崎には1時間あれば到着できるので個人的にはちょうど良かった。 仕事後だったりもし、サンドイッチや飲み物など心遣いがうれしかった。 第3回、第4回の内容は同じ講師で時間をかけて受けたかったと思う。	(3)
B	短時間であっても現場に活用できそうな内容が多く役立てられると思う。 特別不満もなく仕事が終わってから余裕で参加できた 場所も駅に近く便利でした。 2 できれば横浜又は藤沢位が良い、遠かった 会場は広さ、設備ともに十分でしたが勤務後に参加するのは遠かった。 是非同じ場所、時間をお願いしたい。 開始は18:30でないと仕事が終わらないので良いです 120分だと終了が20:30なので翌日のことを考えると疲れますが適切と思う。 研修日の間隔も良いと思う。 回数も時間も丁度よい、長いと大変でした。 軽食や飲み物まで用意していただき、心遣いがとても嬉しかった。 2	(13)

## 3) 今後のセミナーへの希望

次回の参加についての希望は、表8のとおりであり、いずれにしても参加の希望が多かった。また、テーマに対する希望は、表9のようにコミュニケーション、教育・指導の順に多かった。

## 4) その他の意見感想としては表10のとおりである。

全体的に学習に対する意欲を示すものであった。

表8 次回への参加の希望

	A	B	合計	(%)
是非参加	5	14	19	(35.2%)
参加	5	7	12	(22.2%)
どちらともいえない	0	0	0	(0.0%)
しない	0	0	0	(0.0%)
テーマによって	11	12	23	(42.6%)
合計	21	33	54	(100%)

表9 今後の希望する内容

希望するテーマ	総数	内容の例
1 コミュニケーション	26 (48.1%)	・交渉術・実際の看護場面の検討・苦情への対応・新人との接し方
2 教育・指導	23 (42.6%)	・新人教育・情報交換・行動変容・対応が困難な人への関わり
3 専門	12 (22.2%)	・呼吸療法・在宅にむけて
4 研究	9 (16.7%)	・看護研究の進め方・論文の書き方
5 その他	8 (14.8%)	・リラクゼーション・ナイチンゲール看護論・現場に活かす倫理

表10 全体に関する感想・意見

	総数
場所的にも金銭的にも気軽に参加できとてもよかった。中身も充実していたと思う。	(14)
楽しく参加させていただけた 2	
4回楽しく参加できました。いろいろな方法を自分の合う形で選択したい。	
今日どの内容も良かったと思う。全体に時間がもっと欲しいと思った。	
今日のセミナーは入り口でもっと深めたいという思いの内容でした。	
職場が忙しく余裕がないが、少しずつ学び続けようと思います。	
以前川崎短大の研修に参加しました。又勉強してみたいと思い参加させていただいた。ありがとうございました。	
違う職種の方々の中で良い学びができたことに感謝します	
もう少し学びたかった、最後の閉会式はうれしかった。	
時間、期間、時期ともに無理がなく良かったと思う。	
今回の講座でのひとりひとりの講義の演習編を是非受けてみたい。	
最後聞きにいけなくて、すみません。まだどこかでお会いしたいです。	
このような活動を続け臨床と学校とのギャップを少なくして、連携のとれた教育体制を作っていって欲しいと思う。	

## IV. 考察

### 1. 夜間サテライトの効果と課題

今回、川崎市を中心とした看護職を対象に、2コース(1コース4回)の夜間サテライトを実施した結果、77名の参加があり、55名が4分の3以上出席しており、予定した人数を上回った。また、アンケートの結果からも、いずれのコースも「ニーズに合っており、知識・スキルが習得でき、これからに活かせる」と高い満足感を示していた。また、それぞれに「リラックスでき、教員や参加した受講者から様々な刺激を受け、開放された」と答えており、本研修のコンセプトである、①気軽に参加できる、②元氣になれる、③刺激を受けあうという点では、成果があったと考えられる。

また、進行や日程、場所、費用に関しても約90%以上の人が適切としており、それぞれのニーズに合ったものであったと判断できる。特に就労後であったため、軽食と飲み物を準備したことは、多くの受講者がうれしかったこととして、記載されていた。

今後の課題としては、より受講者のニーズを捉えて、かつ楽しいプログラムを準備することが重要であると考ええる。

### 2. 生涯教育の視点としてのプログラム開発

Aコースに関しては、「『私』を育てる」というテーマを設定した。日頃の実践の中で、指導や教育を行う上で重要な要素として「自分」を育てる自己教育力であるということと言うまでもない。1回目には「イメージ・マップ」を通して、自分の看護者としての育ちを見つめ直してみる試みを行った。各自で「イメージ・マップ」に記入し、その後グループで分かち合うという手法を用いた。教員はあえてまとめるとすることはせず、それぞれの受講者のその場での気づきを大切にしていた。2回目は外部講師による講義で、「共に育つ」という意味について考える機会とした。3、4回目は「カード構造化法」を用いて自分の看護師としての育ちを確認していった。ペアになり、プロンプター役を実施することによって、お互いの気づきを共有していく体験を行った。この体験は「自分を振り返ることに繋がり」また、「自分以外の存在についての確認と感謝」などといった深い気づきを得られることに繋がっていた。そして全体のアンケートの結果として「今後活かせる」としている受講者はBコースよりも高い比率となっており、自己の振り返りが深いことを表していると考え

る。しかし、3回目のカード構造化の作業から4回目が2週間という間が空くため、効果的に演習ができなかった側面があるとの評価も聞かれ、今後の課題となった。

Bコースは「カウンセリングで生き活きと」というテーマで3人の講師により、一回完結の内容で実施した。受講者にとっては、「初心者向けでいままで聞いた内容であった」り、また、「難しい内容であった」ようだったが、知識が習得でき、ニーズに合ったものであるとの評価を得た。一回完結の内容であったので、「もっと詳しく学びたい」との要望もあり、今後プログラムの企画についても考慮していく必要がある。

2つのテーマに関しては、いずれも受講者のニーズに合っており、適切なプログラムであったといえる。今回の研修を通して、多様な人々が集い、安心した学習環境のもと、「学ぶ喜び」を共有することに真の価値や意味があるのではないだろうかと考えた。業務に直結した知識や技術の習得でもなく、専門職として必要な学習と限定しないような、一人ひとりが違ったゴールで、仕事を超えた自己の成長に繋がるような学びの場を提供していくことこそが重要であると改めて感じた。

## V. まとめ

この研修は、本学が近隣の看護職のための継続学習の一環として学習ニーズに応えるために、取り組んだものである。職種、職位、年齢など多様な人々が集い、同じテーマで同じ時間を共有することができた。日常の困難や苦難、喜びを共に感じ、了解することによって、次のステップとなり、学びや意欲に繋がっていく感覚を味わったように思う。これは受講者だけでなく、企画者側も共に元氣になれば、刺激を受けあえたと感じている。企画者と受講者ともに学び創造するという、本当の意味での継続教育の場が提供できたのではないかと考える。2コースの研修を通して、高い満足を示し、更なる高みを望むに至った結果は双方向性の研修の成果と言えるだろう。しかし、今回の調査では満足度について5項目のみの分析であり、その他の要因について検討する必要がある。

また、在職中の看護師が就労後に学ぶ機会を得やすくするために、駅前の会場を確保し、時間帯も受講しやすくしたこと、受講料も手軽で軽食を準備するなど工夫が更にこの研修の成果と繋がったと考える。

## おわりに

今回実施した「夜間サテライト」看護セミナーは、本学開学以来の試みであり、本学への将来像を考える上でも、大きな研究資料としたいと考えている。このセミナーを通して、受講者の方々の学習への高

い意欲や期待を感じることができた。「生涯学習」を視野にいたした本学の在り方の重要性の意義を今改めて確認しつつ、本学が出来る「サービス」を創造していきたいと考えている。

## 文 献

- 1) 蔵谷範子, 有田清子, 吉村恵美子 他. 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズ. 川崎市立看護短期大学紀要. no.13, 2008, p63-68.
- 2) 山中伸一, 目黒悟. カード構造化法の手順. 教育実践臨床研究・学びに立ち会う～授業研究の新しいパラダイム. 藤沢市教育文化センター, 2002, p83-92.
- 3) 五島敦子. アメリカの大学の社会貢献理念 - 定義と歴史的変遷の検討 -. 南山短期大学紀要. no.34, 2006, p123-139.
- 4) 館昭 編著. 短大からコミュニティ・カレッジへ. 東信堂, 2002.
- 5) パトリシア・A・クラントン, 入江直子他訳. おとなの学びを拓く. 鳳書房, 1999.
- 6) ティモシー・ガルウェイ, 後藤新弥訳. インナーワーク. 日経スポーツ出版社, 2003.